

事業所名

子ども発達センター居宅訪問型児童発達事業

支援プログラム

作成日

令和6年

12月

26日

法人（事業所）理念		子ども一人一人を大切にし、子どもが喜びや幸せを感じながら、成長できることを目指す。					
支援方針		「遊び」を通して、子どもの自尊心や主体性を育て、個々の成長に合わせた「生きる力」の基礎を培うための支援を行う。					
営業時間		9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	無
支 援 内 容							
本人支援	健康・生活	<p>(1) 健康と生活リズムの維持</p> <p>① 保護者と体調の確認をする。特に医療的ケアがある場合にはその状況と、睡眠時間、当日の朝食時間や食欲の有無、排尿・排便等の状態を確認する。</p> <p>② 重症心身障害児や医療的ケアが必要な児に対しては、安全に活動ができるように、かかりつけ医や訪問看護師と連携を取る。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の形成</p> <p>家庭での生活の中で、様々な遊びを通して成長が促されるよう保護者への情報提供を行う。</p>					
	運動・感覚	<p>(1) 運動・動作の経験</p> <p>① 全身を使った動作（手・足を動かす、寝返り、うつ伏せ、座る等）を経験できるように支援する。</p> <p>② 手指を使った動作の経験を積めるように支援する。（例：粘土、描画等）</p> <p>(2) 感覚の遊びへの興味・関心</p> <p>遊びを通して、触覚・視覚・聴覚・固有覚等を十分感じられるように支援する。（例：マッサージ、光遊び、楽器遊び等）</p>					
	認知・行動	<p>(1) 認知の特性についての理解や対応</p> <p>“はじまり”“終わり”などに自ら気づくことや、自分から触れてみよう・やってみようという意欲を育む。</p> <p>（例：はじまりの歌や終わりの歌を毎回歌うことや、興味のある活動を繰り返し取り入れる等の工夫）</p>					
	言語 コミュニケーション	<p>(1) コミュニケーションへの意欲</p> <p>① 聞こえやすい・見やすい位置から話しかける等、相手に気づき、コミュニケーションへの意欲を育めるように支援する。</p> <p>② 大人の働きかけに対して、声や動きが出た時にはすぐに反応を返して、伝わった喜びが感じられるように支援する。</p>					
	人間関係 社会性	<p>(1) 人と関わる心地よさの経験</p> <p>発達段階に応じて他者と関わる楽しさを育めるように支援する。（例：くすぐり遊び、ふれあい遊び等）</p>					
家族支援		お子さんの課題や成長を家族と共有し、寄り添いあえる関係を構築する。 （例：個別支援、アセスメント面談、確認面談等）			移行支援		進路（幼稚園・保育園・小学校）に関する相談支援。 他施設との連携（アイリスシート等）
地域支援・地域連携		相談支援事業所との連携 必要に応じて、医療機関等、お子さんが関係する機関との連携			職員の質の向上		外部の研修やOJT（虐待防止・事例検討・理学療法士や心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等の専門職による相互研修）を計画立案し参加することで質の向上につなげる。
主な行事等		近隣の散歩を通して、季節の花や風、自然に触れ合い、季節を感じる。 制作等を通して、季節の行事に触れる。（こどもの日、梅雨、七夕、夏の水遊びや氷遊び、ハロウィン、クリスマス、正月、節分、ひなまつり等）					